



1 社会資本の概要

道の駅「千枚田ポケットパーク」は「白米千枚田（しろよねせんまいだ）」と隣接しほぼ一体化している道の駅であり、観光・保全イベントの拠点として、棚田の魅力や輪島市の取り組みを発信する施設です。国指定名勝「白米千枚田」は、世界農業遺産「能登の里山里海」のシンボリック棚田で、この棚田を守っ

ていくため多種の保全活動が行われており、直接的な保全以外にも観光客を呼び込むことで地域活性化や保全の仕組み強化へと繋がっています。

平成25年11月に更なる魅力を発信するため、道の駅の全面改修を行い、千枚田から道の駅を望んだ際に人工物が目立たない整備レイアウトを採用するなど棚田景観への調和を図りました。



国指定名勝「白米千枚田」



道の駅 千枚田ポケットパーク

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

1つ1つの田んぼが小さいため機械による効率化が図れず、更に地元白米町の耕作者も高齢化が進み、耕作を維持するのが最大の課題でした。白米千枚田を守るため有志を集い、平成18年に「白米千枚田愛耕地会」を組織し、オーナー制度を活用するなど白米田の耕作の維持が可能になりました。その他ボランティアによる耕作や千枚田での結婚式（平成12年～）等様々な取り組みにより、白米千枚田の価値の向上や景観保全に繋がっています。

「あぜのきらめき」は、1004枚の小さな田んぼの



LEDイルミネーションイベント「あぜのきらめき」

あぜ道に約2万個のLEDにより夜間棚田に幾何学模様を浮かび上がらせるもので夜の千枚田を壮大かつ幻想的に彩ります。一夜かぎりのライトアップイベントが好評だったことから、地元の電子部品メーカーと市で独立型太陽光LED「ペットポタル」を共同開発し、キャンドルの代用とすることで、世界的にも例が無いイルミネーションイベントを実現させました。《太陽光発電LEDの最大ディスプレイでギネス世界記録認定》



ボランティアによる耕作参加

3 地域への成果や波及効果等

イルミネーションイベントは、開催前にくらべ大幅に観光客が増加するなど成果をあげています。また、平成19年にスタートしたオーナー制度は、会員数が現在170名を越え年々増加しています。会員のほぼ半数が首都圏の方々であり、輪島市への誘客及び地域交流にもつながっています。



道の駅展望台 夜間の賑わい

4 前回受賞時からの活動の発展内容

平成4年度に手づくり郷土賞を受賞後、棚田保全活動として棚田一枚毎にオーナーを募集する「オーナー制度」や耕作放棄されている田をボランティア達の人力により復活させる「棚田復活プロジェクト」、美観を活用した観光イベントとして太陽光発電LEDを畦に並べる「あぜのきらめき」イルミネーションなどに取り組み、輪島市への誘客や地域交流に繋がっています。

喜びの声



●受賞者

(公財) 白米千枚田景勝保存協議会 理事
白米千枚田愛耕地会代表 堂前 助之新

●コメント

大賞を受賞できうれしく思っております。白米千枚田では全国にいるオーナー会員などの力を借りながら美味しいお米が作られています。草刈り・畦塗り・水あてなどの耕作作業を継続していくことは、棚田の景観を守ることに繋がります。

機械が入らない棚田の耕作は『10人のプロより100人の素人』の気構えであり、今後も沢山の人が耕作に携わっていただけたら幸いです。道の駅では棚田米おにぎりを食べることもできます。先人達が築き上げ、現在も皆の力で守り続けている絶景の棚田、是非みなさんも足を運んでみてください。

●活動内容

棚田保全活動、観光イベント など

●活動の経緯

平成12年～ 千枚田結婚式
平成19年～ オーナー制度
平成23年～ あぜのきらめき

所在地

石川県輪島市白米町地内

活動主体及び連絡先

公益財団法人白米千枚田景勝保存協議会
(0768-23-1146)
※功労者名：堂前 助之新

対象となる社会資本

道の駅 千枚田ポケットパーク
※管理者：輪島市



手づくり郷土賞について

講評

大賞部門

一般部門

資料集

手づくり郷土賞について

講評

大賞部門

一般部門

資料集